近代公園の先駆者・長岡安平が描いた竹内農場庭園

11 西洋館の庭園設計

竹内農場西洋館の周囲には、様々な木々が植えられた美しい庭園が計画されていました。これを設計したのが、日本全国で公園設計を行っていた長岡安平です。長岡が全国に残した公園や竹内農場の庭園設計図を読み解き、彼が思い描いた竹内農場庭園がどのようなものであったか考えてみましょう。

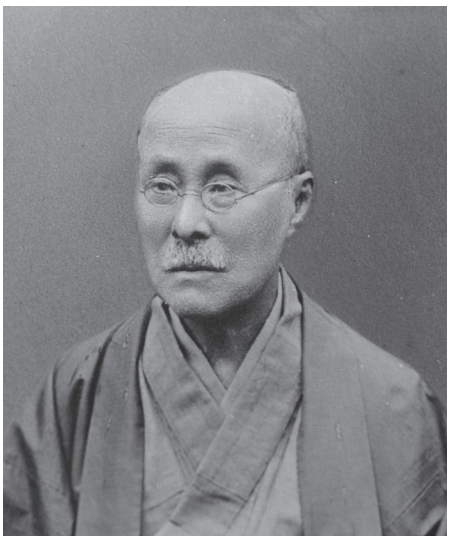
長岡安平の生い立ちと足跡

長岡安平（**写真**）は天保 13（1842）年肥前大村藩（現在の長崎県大村市）藩士の五男として生まれました。幼少期は病弱で花や草木を育てていましたが、体調が良くなってからは各地の景勝地や庭園を見て廻り、庭園について書かれた古書を読んでいました。

明治 3（1870）年 29 歳の時に、討幕運動で活躍した楠本正隆に付いて上京し、明治 5（1872）年楠本が新潟県令として着任する際も同行します。新潟は早くから開港し外国人が多く来航していたので、楠本は近代的な街づくりに積極的に取り組みます。明治政府が上野をはじめ全国 81 箇所に公園を設置するより 1 年早い明治 5（1872）年に白山神社境内で公園の造成を始めています。その後、楠本は新潟での実績が高く評価され明治 8（1875）年東京府知事に任命され長岡も上京します。明治 11（1878）年 37 歳の時に長岡は東京府土木掛の職員として任命され日本人初の公園技術者として活躍の場が与えられ、芝公園、飛鳥山公園、坂本町公園などを設計監理します。一方、当時地方では公園の専門家は皆無に近い状況から、東京府勤めの晩年、明治 29（1896）年 55 歳の時に秋田県庁からの依頼で東京府の職員として出向し千秋公園の設計を行います。これ以降、北は北海道から南は山口県まで、訪れた地域は 26 都道府県に及びます。退職後も精力的に地方に赴き、大正 14（1925）年 84 歳で永眠するまでに行った公園・庭園等の設計は 187 箇所を数えます。

竹内農場庭園設計に至る経緯

竹内農場庭園の設計図（**図 1**）は大正 3（1914）年 12 月に作られていますが、長岡がどのような経緯で設計したかは明らかにされていません。実際に庭園がどこまで施工されたかについても確認ができていません。「しかし、長岡は晩年、主に政治家や官僚を中心とした上層階級の個人庭園を数多く設計していることから、その関係者からの紹介によって、竹内家から依頼されたことは想像に難くないだろう[1]」と思われます。明治 42 年（1909）に竹内明太郎の郷里である高知県内の二つの公園（高知公園、五台山公園）を長岡が設計し 5 年後に竹内農場庭園の設計図が完成している状況からみて、その時期に長岡が明太郎と出会い庭園設計を依頼されたのかもしれません。



長岡安平（1842-1925）。生涯を通じ、全国に多くの公園や庭園を設計し、現存している公園も多い。自ら設計した芝公園内に自邸を構えた。（公益財団法人東京都公園協会所蔵）

長岡の設計思想と設計図から見て取れる特色

長岡の造園観が明確に表れているのが植栽のやり方です。長岡は「自然に基調を置いた近代的な庭園を用いるものならば、総て技巧のない自然木を選ばねばな

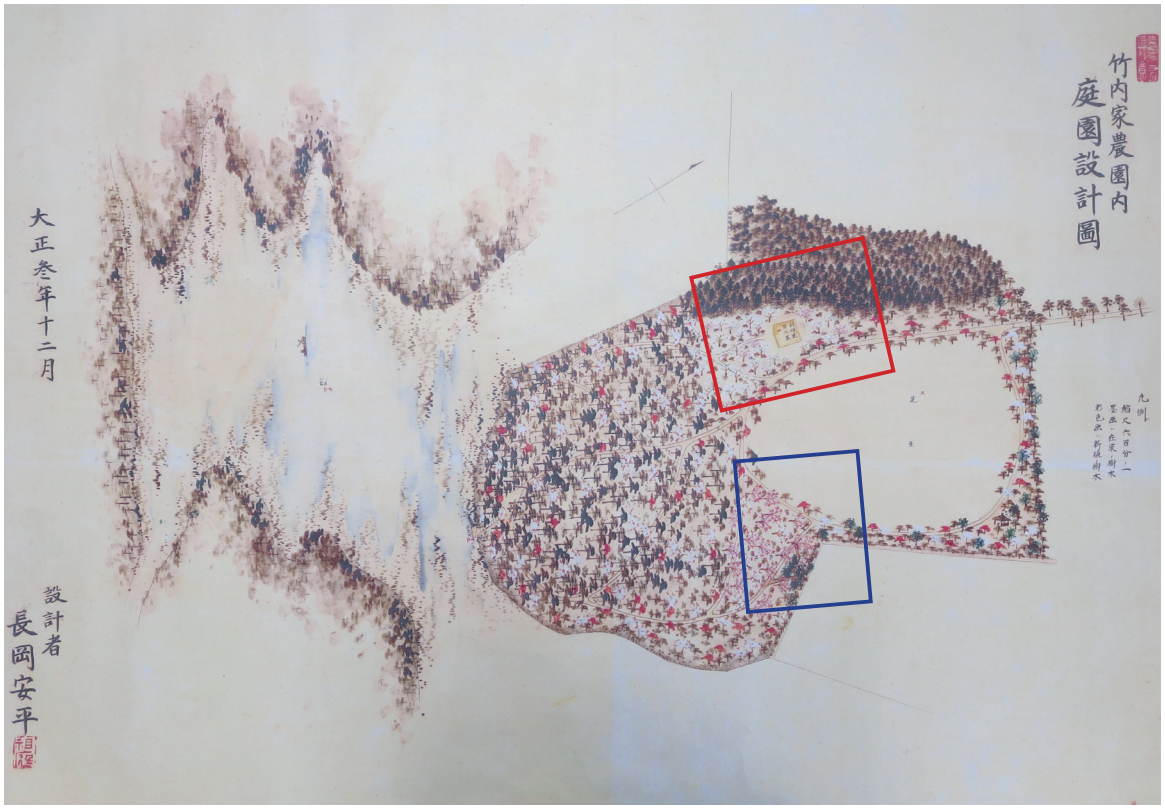
らぬ。手入れをして作りあげた旧来の庭木は価額の高いばかりで、決して自然の崇高な精神を純な風致を有するものではない[2]。」と言っています。注目すべきことは「庭園の根底は自然の模写である[3]」ということです。

竹内農場庭園設計には、在来の樹木としてスギ林・ヒノキ林を残すと共に、既存の樹木の間に新たな植栽を施し在来の樹木に彩を添えています。

長岡のデザインは一般的な平面図ではなく、美しく彩色された鳥瞰図的な設計図（**図 1**）を描いています。墨で書かれた樹木は既存の樹木を示し、墨の濃淡で二つに塗り分けています。彩色された樹木は新植の樹木を示しています。白色の樹木は花木のようにも見えますが正確には分かりません。紅色は紅葉だと思われます。

西洋館前の淡いピンク色で描いた樹木は紅梅、白色は白梅を示し混植の梅林が広がっています。さらに西洋館前の芝生広場越しには桃林（小さな桃源郷）が広がり、春に薄紅色の花で楽しませてくれるよう設計されています。

蛇沼の畔には船着き場が描かれ、沼中央部には船頭が人を乗せて漕いでいる小舟の風景が描かれています。西洋館を訪れた客人が小舟に乗って遊覧しているイメージが浮かんできます。蛇沼を望む風光明媚な場所に西洋館を建てた意味合いが伝わってきます。



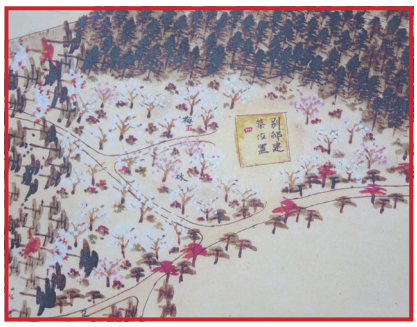


図 1（上）『長岡安平による竹内農場庭園設計図（龍ケ崎市教育委員会所蔵）』。　2（左下）　春には薄紅色に染まった林を抜けて蛇沼へ続く小道を散策できるよう桃林が配置された。　3（右下）西洋館前に梅林。「別邸建築位置」に西洋館が建てられたと思われる。下の２つは竹内農場庭園設計図の一部を拡大抜粋。

引用文献

1）「竹内農場赤レンガ西洋館の平面図等作成及び保存に係る調査報告書」

2）**3**）進士五十八（2015）「日本文化としての公園―長岡安平の造園哲学―」都市公園№ 211